平成１９年4月１０日

(社)日本ガス石油機器工業会

「暖房器具をしまうときの注意」

公表されているＮＩＴＥの事故情報で約１０年前に１件、保管していた石油ストーブが、人が操作していないのに点火し、ストーブの上に置いていた段ボールとその周囲が燃えたという事故がありました。

それ以外の内外の事故情報には見あたりませんでしたが、ゴミ収集車の内部で発火した原因が、収集車内部の石油ストーブの点火ボタンが何らかの原因で押されたために、残っていた灯油が燃えたのではないかということを耳にしたことがあります。

想定可能な、このような石油ストーブでの事故を未然に防ぐために、「暖房器具をしまうときの注意」として、保管前に必ず行なっていただきたい事が２つあります。

１． 器具のタンクから、灯油を抜き取ってください。

２． 自動点火用に乾電池を使うタイプでは、器具から乾電池を取り外してください。

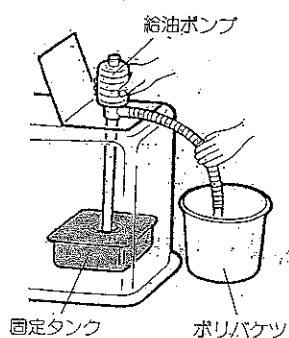
一般的な「取扱説明書」記載のご注意には、これ以外にも「不良灯油」に関するご注意もありますので、その内容を紹介します。（以下）

石油ストーブの保管方法

おしまいになるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

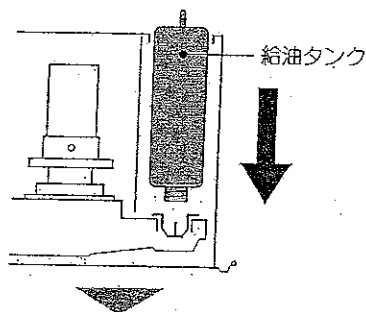
1．給油タンク・固定タンク内の灯油を抜き取ってください。

- 水、ごみなどを残したまま保管すると、さびや穴あきの原因になったり、しん上下不良の原因になることもあります。
- 灯油を抜いたあとは、内部をよく乾燥させてください。

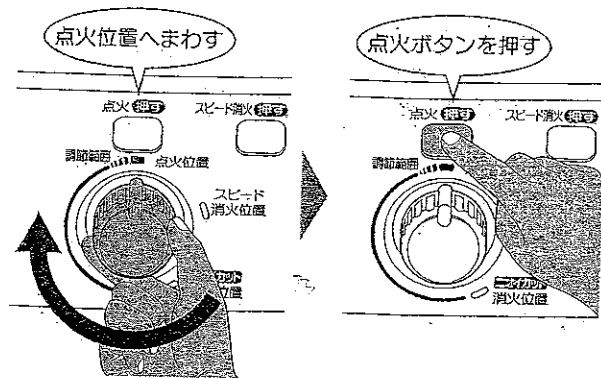
ごみや水を抜く

- 固定タンク内にたまっている灯油およびごみや水を市販の給油ポンプなどで抜いてください。

- 灯油の廃棄
  灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2．しんの手入れをしてください。

- しんの手入れをするときは、風のあたらない場所でおこなってください。風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。また、しんの手入れ中はにおいがしますので換気をしてください。

①空タンクをセットする
- 給油タンクの灯油を抜いて、空タンクをセットしてください。

> - セットしないとしんが下がって、しんの手入れができません。

②点火操作をする
- 正しい炎の状態で燃焼させてください。

③そのまま灯油がなくなって、火力が小さくなるまで放置する

④火力が小さくなったらしんをいっぱいに上げ、消火するまで燃焼させる

3．必ず乾電池を取りはずしてください。

4．内部のごみやほこりを取ってください。
●燃焼筒と給油タンクを取り出し、しん調節つまみを抜いたあと、キャビネット（枠）の左右側面（下部）の止めねじ４本と操作部中央の止めねじ１本をはずし、キャビネット（枠）を前方に約４５°傾け、操作部が引っかからないよう注意して持ち上げてはずしてください。掃除機などでごみほこりを取り除いたのち、もとどおりに組み立ててください。

5．ストーブの外観を掃除してください。

外観	キャビネット（枠）反射板、覆板、置台など	●ほこりや汚れがないか。	●ブラシややわらかい布でふきとる。（ベンジン、シンナー、クレンザーなどでふかないでください。
	天　　板	●化繊などのほこりが焼きついていないか。 ●白っぽく変色していないか。	●しめらせたやわらかい布にクレンザーをつけてふきとる。 ●しめらせたやわらかい布でふきとる。

6．対震自動消火装置を作動させてください。
●しんを上げ、置台の左側を前後に強く動かしたとき、対震自動消火装置が作動して、しんが最後まで確実に下がるか確認する。

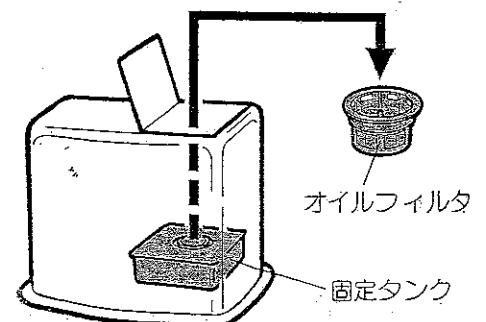
7．包装箱に入れて、乾燥した場所に水平に保管してください。
●注意！傾けたり、横倒しの状態では絶対に保管しないでください。
●取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。
●来シーズンにお使いになるときは、対震自動消火装置の作動を２～３回くりかえし、しんが最後まで下がることを確かめてください。

石油ファンヒーターの保管方法

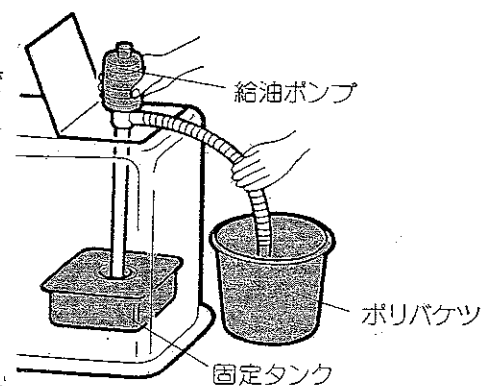
おしまいになるときは、電源プラグをコンセントから抜き、次の要領でお手入れしてから保管してください。

1．灯油を抜き取る
給油タンクと固定タンク内の灯油を抜き取ってください。

●固定タンクからオイルフィルタを取り出してください。

●オイルフィルタを取り出すとき、水やごみを固定タンクに落とさないよう注意してください。

●固定タンク内にたまっている灯油およびごみや水を市販の給油ポンプなどで抜いてください。

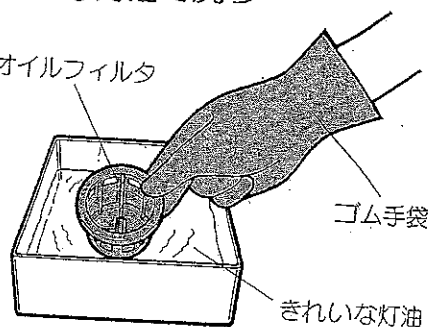
●固定タンクの底にたまったごみや水・灯油をふきとった場合は、ティッシュなどを固定タンクの中に残さないでください。
残した場合、故障や異常燃焼の原因になることがあります。

●灯油の廃棄
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2. オイルフィルタの掃除をする

きれいな灯油で洗う

●オイルフィルタの中の水やごみを取ってからきれいな灯油で洗ってください。

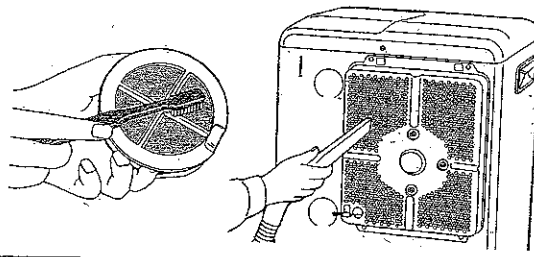
●ごみが取れにくい場合は、歯ブラシなどを使うと便利です。

●フィルタ部を破損させないよう注意してください。
●フィルタ部に水が付着した場合は、十分に乾燥させてください。

3. オイルフィルタをセットする

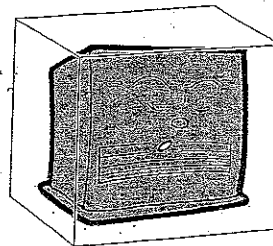
●オイルフィルタをもとどおりにセットしてください。

●こぼれた灯油はよくふき取ってください。

4. ほこりやよごれの掃除をする

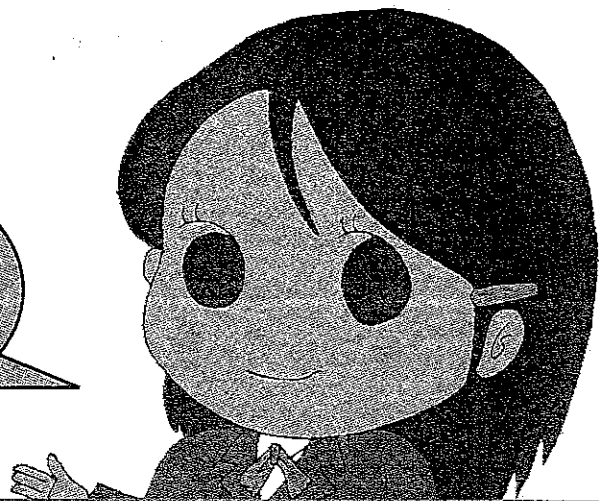
●エアーフィルタ・温風空気取入口の掃除をしてください。
掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。
●温風吹出口・本体の掃除をしてください。
しめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

5. 保管する

●包装箱に入れて、湿気のない場所に水平に保管してください。
取扱説明書も大切に保管してください。

ご注意 ●逆さにしたり、傾けたり、横倒しの状態では絶対に保管しないでください。
抜けきれなかった灯油がもれて火災のおそれがあります。

不良灯油は使用しないでください。

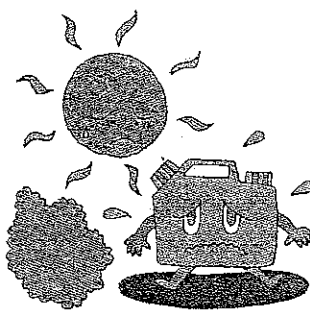
使用しますと――

◆燃焼しなくなる　◆赤火燃焼になる
◆白煙が出る　◆強い臭いがする

などの故障の原因になります。

不良灯油とは

不良灯油には、変質灯油と不純灯油があります。
変質灯油とは、灯油の性質が変化し、劣化したものをいいます。不純灯油とは、種類の異なる油や水・ゴミなどが混じった灯油をいいます。
どちらも石油燃焼機器にとっては迷惑な灯油です。

変質灯油

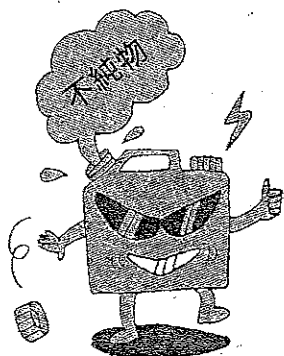
昨シーズンより持ち越した灯油、日光の当たる場所で長期間保管した灯油など温度が高い場所で長期間保管した灯油をいいます。

不純灯油

水やゴミが混入した灯油、シンナー、助燃剤などが混入した灯油、灯油以外の油（天ぷら油など）が混入した灯油をいいます。

変質灯油の見分け方

水より色がついていたら変質灯油です。
変質のひどいものは、黄色味を帯びたり、すっぱい臭いがします。

灯油の変質を防ぐには

◆灯油はシーズン初めに新しくお買い求めください。
◆保管は灯油用ポリ容器、ブリキ缶などの専用の容器に入れてしっかりとふたを閉め、屋内の直射日光が当たらない場所に置いてください。
◆シーズン終了近くなったら大量に買わず、こまめな購入でシーズン中に使い切ってしまうのが一番です。
◆屋外タンクは使用量に見合う灯油タンクを選び、日の当たらない北側などに設置すれば安心です。

変質灯油、不純灯油が原因の修理は保証期間中でも保証の対象外となります。